



- 2 エッセイ／“おかね”を語る
粋なお金の使い方 落語家 柳家花緑

- 4 インタビュー／扉を開く
音楽で心の窓を開く 指揮者 大野和士



- 9 地域の底力——弘前市
悩み深き人々を受け入れる「森のイスキア」を訪ねて
青森県弘前市常盤野字湯段范



- 16 対談／守・破・創
製造業の「動脈」でもあり「静脈」でもある水から、
環境問題を考える

栗田工業株式会社代表取締役社長 藤野 宏
日本銀行政策委員会審議委員 中村清次



- 20 にちぎんのある街から
高知——偉人を数多く輩出した街

- 24 貨幣の歴史学
戦国金山伝説の実像 戦国時代における金銀貨幣の形成と鉱山開発
東京大学大学院人文社会系研究科・文学部教授 今村啓爾



- 28 新連載 大人のための日銀見学ガイド
日本銀行本店【建物編】

- 32 トピックス

- 35 AIR MAIL from LONDON
日銀欧州三事務所・鉄道ネットワーク時代の幕開け

表紙のことは

日本銀行高知支店は、昭和十八年十一月十日、松山、高松に次ぐ四国地区三番目の日本銀行の支店として開設された。太平洋戦争前は、高知県への現金輸送は大阪からの海上ルートが利用されていたが、戦火が激しくなり船舶の徴用が進むなど輸送が困難化。地元の熱心な誘致活動もあって開設が決まった。開設当時、土陽新聞社（板垣退助の創立した立志社の機関紙を発行。現高知新聞社）の社屋・土地を利用し、中庭に金庫館を新築、営業場や付属の施設は内部の改装だけで、塗りとペンキの匂いも新しく開店にこぎ着けたという。その後、戦災で建物は焼失し、飯店舗で営業をしていた期間などを経て、昭和二十三年五月に建物を新築。現在の店舗は、四十三年十一月に改築されたものである。目の前の通りには、今や日本最古の路面電車である土佐電気鉄道、通称「土電」が今も変わらず走り、その車窓には土佐の風景がゆったりと流れている。

